



本市のスポーツ振興と 令和11年開催の国スポについて

小林 但弥 議員



質問 本市のスポーツ振興の現在の状況について伺います。

答弁 東京オリンピック2020大会でのアーバンスポーツが新種目になったことや、東京2020パラリンピックにおける日本人選手の活躍等により、スポーツニースは多様化していま

す。従来の競技スポーツだけでなく、気軽にできる軽スポーツを楽しむ方も増えており、自分たちの興味、関心や能力等にあつたスポーツを楽しもうとする志向が強まり、選択肢が多様化したものと考えています。

質問 若者のスポーツ離れが進み、競技スポーツの振

興や活性化について、どのような課題があるのか伺います。

答弁 競技スポーツの振興については、指導者の育成は不可欠であると考えており、本市においては、指導者確保及び指導技術向上を目的とした研修会を開催しています。

質問 スポーツニースの多様化により、スケートボードや3X3などのアーバンスポーツに対応できる施設は足りているか伺います。

答弁 現在、市内でアーバンスポーツが行える施設としては、スケートボードができる近藤沼公園のみで、3X3が行える施設はありません。

質問 群馬県で46年ぶりに開催される国民スポーツ大会で、本市で実施される競技について伺います。

答弁 本市では2種目、ローリング競技が城沼で、スリング競技がダノン城沼アリーナで開催予定となっています。

質問 湯けむり国スポぐんまを成功させるための準備について伺います。

答弁 アスリートファーストを基本に、最高の試合、最高の大会となるよう準備を進めていきたいと考えています。

要望 城沼総合運動場内の空きスペース等を時間や曜日でスケートボードができるよう開放し、また、3X3ができるようバスケットゴールを増やしていただくことを要望します。



地域共生社会の実現に向けた包括的な支援体制の整備と子育て支援の取組について

柴田 信 議員



質問 本市における「地域共生社会の実現に向けた包括的な支援体制の整備」について問う。

答弁 現在、地域住民の抱えている課題は複雑化・複合化しており、従来の支援体制では単独で解決することは困難になっています。このような状況の中、ワン

ストップ型の総合相談窓口として、令和2年4月に「ふくし総合相談窓口」を館林市社会福祉協議会内に設置しました。そこで、問題が

単独で解決できないと判断された場合については、多機関協働事業において、利用者にとって必要と思われる福祉の様々な関係者に参

加していただき、重層的支援会議を開催し、必要なプランを作成しています。今後も、関係機関との連携、協力を強化し、住民一人一人の暮らしと生きがい、地域をともにつくる地域共生社会の実現に向けた取組を行っていききたいと考えています。

質問 「子育て支援」の取組について問う。

答弁 現在、本市において実施している支援の取組については、子ども・子育て

支援事業計画を策定し、妊娠・出産・子育てまでのサービスとして、地域子ども・子育て支援事業の13事業を実施しています。そのうちの6つの事業ですが、1つ目となる利用者支援事業、これは専任の保育士を配置することで全ての妊産婦を把握し、個々にあつた支援プランを作成し、切れ目のない支援の提供を行うものです。2つ目の事業として、妊婦健康診査の費用助成を行っています。3つ目の事

業として、乳児家庭全戸訪問事業、4つ目の養育支援訪問事業では、養育に関する相談、指導、助言を行い、適切な養育の実施を支援しています。5つ目の子どもを守る地域ネットワーク機能強化事業は、児童虐待に対応する取組で、6つ目の子育て短期支援事業（ショートステイ）では、家庭での養育が一時的に困難となった場合に、児童養護施設などで一定期間養育、保護を行っています。